



とらいあんぐる



2021 年 1 0 月

一音会ミュージックスクール発行

「しなやかに生きる」

先月、「逃げて良い」というお話をしました。皆さまから反響をいただき、うれしく思っています。

多くの方がお気づきのように、「こうあってほしい」と私がいう時はかならず、過去の自分に対する反省があります。

上手に逃げられていなかったのは、誰でもなく私自身です。「逃げて良い」は、子ども時代の自分に、一番いいたいセリフでもあります。

今、思い返すと、「あの時は、ああすれば良かったのに・・・」と思うことの連続です。

そのほとんどが、逃げれば簡単なのに、思いこみにしばられ、意固地になってふみとどまって、よけいな苦勞をかかえこんだり悩んだりした経験です。

だからいいたくなるのです。

子どもたちには、「うまく逃げてほしい」と。

おうちの方には、「逃げることを許してあげてほしい」と。

物理的に痛い暑いはもちろんですが、「ああ、苦しい！」と思う瞬間は、それだけではないでしょう。

心が苦しいこともあれば、八方ふさがりで、どうして良いか分からないこともあります。

そういう時、「こうでなくてはならない」という“ルール”にしばられていると、本当に逃げられなくなってしまふものです。

私は近年、年をとって、図々しさを身につけました。

それは「知恵」なんていう良いものではなく、明らかに図々しさだと思うのですが、それに助けられて楽になったことが、実は山ほどあります。

こうして“おばちゃん”になって楽になってみると“おばちゃん”になるのを待たずとも、逃げる術を身につけることは可能なのではないか？と思えてきます。

この場合、「逃げる」というよりも、「しなやかに生きる」といった方が良いかもしれません。

少し前に、鴻上尚史氏の書いた「空気を読んでも従わない」という本を読みました。

実はこの本は「岩波ジュニア新書」であり、“おばちゃん”の読む本ではありませんが、新聞の書評で興味を持ち、手に取ったものでした。

今、多くの子どもや若者たちが、「空



気を読め」という、意味不明の重圧に苦しんでいます。この本は、特に思春期の子どもたちを逃がす目的で書かれた指南書です。

楽になるいくつかの方法を提案していますが、私のあこがれる「しなやかに生きる」に近いと感じました。

その中の1つのエピソードに、帰国子女の小学校5年生の女の子の話があります。

その女の子は、おしゃれが好きで、華やかですてきな洋服をたくさん持っていました。

小学校は私服です。アメリカで買ったおしゃれな洋服で学校に行きました。

ところが、その子は目立つ服装で周囲から浮いてしまい、いじめられるようになってしまいました。

お父さんはいいます。

「好きな服を着て何が悪い？好きな服を着て、堂々と学校に行きなさい」

ところが、お母さんは心配でなりません。

「そんなことをしていたら、この先もずっといじめられるのではないかしら・・・」

自分を貫き通すか、自分を曲げるか。

建前では、前者です。自分の考えが間違っていないのなら、貫くべきです。

でも実際問題として、いじめられている現状は大問題です。

自分を曲げて、地味な洋服に変えれば、問題は解決に向かう可能性があります。

でも「屈した」という事実は残ります。

皆さんだったら、なんとアドバイスしますか？

著者のアドバイスは、「負けて勝つ」です。

学校では地味でダサイ洋服を着て、周囲に合わせます。「私はあなたたちの文化に合わせる気持ちがあります」ということを態度で示すのです。

でも、学校以外のお出かけの時は、自分の好きな洋服を着ます。習い事や

塾に行く時も、自由なファッションを楽しみます。すてきな洋服を着たい欲求は、学校の外で満たせば良いのです。

なるほどなあと思いました。

地味な洋服で学校に行くことは、ある意味、「逃げて」います。

自分の欲求を封じ、自分の好みや考えを周囲に理解してもらおう努力を、はなから放棄しています。

この場合の「逃げない」とは、好きな洋服を着て、なおかつ周囲に自分を認めさせることです。想像しただけで、その道の険しさに、くらくらします。学校ごと、やめたくくなります。

だから「いいじゃないか、逃げたって！」と、強く思います。

逃げて良い場面では、どんどん逃げるべきです。

そもそも、洋服ごときで闘うことなんてないのです。バカバカしいです。

でも、「洋服ごとき」といえるのも、「バカバカしい」と切り捨てられるのも、私が年齢を重ねたからなのかもしれ

れません。

このエピソードで、建前は「自分らしさを貫く」でしょうか。とても大切なことですね。

でも、「いじめられる」という犠牲をはらってまで大切にする建前ではないでしょうか？そこは皆さんに同意いただけるでしょうか。

私は、苦しかったら、建前は捨ててしまってもかまわないと思います。「捨てる」に語弊があるのであれば、ちょっと脇に置いておけば良いのです。

おとなになって図々しくなると、建前は建前として理解しつつ、脇に追いやることができるようになります。



けれども、子どもはそうではないから、心配です。

私が、子ども時代をふりかえって、捨てちゃえば良かったと思う建前ナンバーワンを挙げておきます。

「誰とでも仲良くしなさい」

はい、出ました。建前ですね。

いいえ、はっきり「ウソ」だと思います。誰とでも仲良くなんて、できません。

私は、子どもの頃、子どもと接することが苦手で、学校に行くと子どもが常にそばにいることで、ひどく疲れていました。

「お友だちのいない子は問題のある子」という正しくない考えにしばられ、どんなに苦しくても、子どもの輪に混ぜていないといけないと思いこんでいました。

楽しくなくても楽しいフリをし、イヤなことがあってもガマンをし、ひきつった笑みを顔にはりつけ、あぶら汗を流し・・・あの苦しい努力は誰のた

めのものだったのか？ もっと楽に生きて良かったのではないか？

世の中には、脇に追いやられっぱなしの役に立たない建前も、案外あります。

でも、建前に守られていると感じたら、建前を大事にしたって良いのです。

こう書いていて、私はまた迷います。

「建前を捨てろ」といつているのか、「建前を利用せよ」といつているのか、一貫しません。

そして、気づくのです。

一貫性を求めている時点で、「こうするべし」というルールにしばられているじゃないか！

その時々で、捨てるもよし、捨てないもよし。人は一貫していなくて良いのです。人間も、世の中も、ルールに乗るほど単純じゃありません。

もっと都合よく、もっと自由に！

子どもたちには、しなやかに生きてほしいと願います。

(江口 彩子)

◆「音楽の集い」を開催します

11月3日（祝）は、おとなの方の発表会、「音楽の集い」の日です。今年は、はじめて動画配信方式で、「音楽の集い」を開催いたします。

しばらくの間、閲覧いただけますので、これまで興味はあったものの聴く機会がなかった方は、良い機会になるでしょう。ぜひご覧になってください。非公開の形で動画をアップしていますので、閲覧にはお申し込みが必要です。ご視聴をご希望の方は、「ショパンはうす」受付もしくは一音会本部まで、お申し込みください。

閲覧は無料ですが、一音会の関係者の方にかざらせていただいております。



◆「ピアノ・トライ」お申し込みのシーズンです

「ピアノ・トライ」は、エチュードやバッハの作品といった、基礎力やテクニックにごまかしがきかない曲を課題曲とし、普段のレッスンの先生ではない、ベテラン先生が、お一人お一人の弾き方や表現や練習に問題がないか拝見し、さらに上手になっていただくためのアドバイスをお出しするものです。

ピアノ発表会の目的は、大きな舞台で普段の力を出すこと、です。演奏について、普段の先生以外の先生がアドバイスをさせていただくことはありません。「ピアノ・トライ」の目的は、普段の練習を見直し、さらに上手になっていただくこと、です。

去年は、新型コロナの影響で、対面式の「ピアノ・トライ」を断念し、動画提出方式の「ピアノ・トライ」としました。

思い起こして、少し驚くのですが、一昨年は、まだ新型コロナの騒ぎがはじまっていませんでしたので、従来通りの「ピアノ・トライ」でした。なんだか、新型コロナとの共生がずっと続いてきたような気持ちになっていますが、思えばコロナ禍での「ピアノ・トライ」は、昨年度だけです。



さて、今年度の「ピアノ・トライ」は、一昨年までの対面式と、去年の動画式の、折衷で実施させていただきます。

昨年、すべてを動画審査とし、安全におこなうことができた他、日を決めて足を運ぶことが負担になるお忙しい生徒さんにはご好評をいただきました。その反面、ご自宅やレッスン室で撮影するだけになってしまったので、「先生の前で弾く緊張感を体験できなかった」、「先生に直接声をかけてもらえるのが楽しみだったのに・・・」というご意見もいただきました。

今年度は、対面式、動画式、両方のメリットデメリットを考え、皆さまにお選びいただく形を取りたいと思います。

対面式は、1グループ演奏者6名までとさせていただきます。従来の対面式では、1グループ12～14名でしたので、約半分です。そして、グループを入れ替えるごとに換気の時間を作り、換気を徹底します。

したがいまして、従来の対面式よりも、定員が少なくなりますこと、ご了承ください。対面式でご希望の枠が取れなかった場合は、動画式でのご参加をご検討ください。

動画式は、昨年度と同じです。期日までに動画を提出していただきます。コメントーターが、動画を拝見し、コメントを作成いたします。

動画式には、定員がありません。現在、感染者は減っていますが、「ピアノ・トライ」の開催時期は、来年の1月～2月です。その時期の感染状況は分かりませんので、ご不安な方は動画式でのご参加が良いと思います。

「対面式で申し込んでいたが、感染者が増えてきたので動画式に変更したい」ということも可能です。対面式から動画式への変更は可能ですが、対面式は枠に限りがありますので、逆（動画式から対面式への変更）はできません。ご注意ください。

「ピアノ・トライ」をお受けになった方の中で、すてきな演奏をされた方には、「ひびきホール」でおこなわれる演奏会「ル・コンセール」にご出演いただきます。選考基準は、対面式と動画式とで違いはありません。基準は同一です。

「ル・コンセール」は、部の人数を限り、全員入れ替え制とし、密を避ける形でおこないます。1回目を2022年2月13日（日）に、2回目を2月27日（日）に予定しています。

申し込み方法は、次以降の項をごらんください。



◆対面式「ピアノ・トライ」

一昨年までと同様、会場にお越しいただきます。

イメージとしましては、「ミニ発表会」です。演奏の後、コメンテーターの先生がその場で、コメントをします。演奏について、良い点、なおすべき点、もっと上手になるためにやるべきこと、今後の練習法などについて、ご助言いたします。後日、コメント用紙もお渡しします。

(1) メール申込み期間 (申込み先アドレス ichionkai.try@gmail.com)

2021年12月1日(水)から12月4日(土) 24:00まで

一昨年までは、電話でのお申し込みをお願いしていましたが、今年は、メールでのお申し込み方法に変更いたしました。

期間中に、専用アドレス ichionkai.try@gmail.com にメールにてお申込みください。

お知らせいただきたいメールの内容

- ★参加希望の生徒さんのお名前 (レッスン曜日とピアノ担当もご記入ください)
 - ★参加希望の日付と日程枠 (「日程」をごらんいただき、①から⑨の中から第1希望、第2希望の時間帯をお書きください。さらに可能なお日にちがある場合は、ご記入ください)
 - ★その他ご希望 (例: レッスンが11:00までであるので、11:30以降を希望等、具体的なお都合があれば、ご記入ください)
- ※ごきょうだいで同じ日程をご希望の場合、連名でご記入ください。ごきょうだいで希望日程が違う場合は、明確にご記入ください。
- ※♫切後、ご希望の方の人数が定員を上回った枠については抽選をおこないます。
- 1週間以内に、お申し込みメールに返信する形で、結果をお知らせいたします。
- 12月11日になっても返信がない場合は、本部にご連絡ください。

※対面式の定員は限られていますので、ご希望に添えず、動画式をご案内する場合がありますことを、あらかじめご承知おきください。

(2) 日程 (全て「バッハはうす」でおこないます)

1月22日(土)	①午前	②午後A	(山本先生予定)
1月29日(土)	③午後A	④午後B	(山本先生予定)
1月30日(日)	⑤午前	⑥午後A	⑦午後B (⑤能勢⑥⑦夏目先生予定)
2月11日(金・祝)	⑧午前のみ		(能勢先生予定)
2月20日(日①)	⑨午後Bのみ		(能勢先生予定)

※ 全ての日において、「午前」は午前10:00~12:15、「午後A」は12:45~3:00、「午後B」は3:15~5:30 となります。その中をさらにグループ分けいたします。(2月20日のみ午後4:00から)

※ 当日のお部屋には、ご両親、ごきょうだいが同席いただけます。

(3) 参加費

2200円

※参加費は、2022年3月28日お月謝引き落とし時に加算させていただきます。
当日、参加費をお持ちになる必要はありません。

(4) 課題曲

以下の中から任意の1曲

- ・バッハおよびバロック時代の作品
- ・エチュード
- ・ポリフォニーの曲
- ・「すくすくミュージックスクール」のテキストの中の曲
(「おんぷの学校」、「ピアノの学校」、「音楽の学校」の中の曲)

ただし、絵音符の生徒さん、まだ五線の曲に入ったばかりの生徒さんの曲目は自由です。

◆動画式「ピアノ・トライ」

ご自宅やレッスン室で演奏しているところを動画におさめていただきます。コメントーターの先生が動画を拝見し、コメントをお出しします。

(1) エントリー〆切

2021年12月15日(水) 24:00

Line のトーク画面で、お申し込みください。お名前、年齢(学年)、ピアノ担当をお知らせください。

※くわしいやり方は、別紙をご参照ください。

(2) 動画提出〆切

2022年1月31日(月) 24:00

Line のトーク画面で、動画をお送りください。お名前、曲名(作曲者)、楽譜の写真、動画、をお願いします。

※くわしいやり方は、別紙をご参照ください。

(2) 参加費

2200円

※参加費は、2022年3月28日お月謝引き落とし時に加算させていただきます。

(3) 課題曲

以下の中から任意の1曲

・バッハおよびバロック時代の作品

- ・エチュード
- ・ポリフォニーの曲
- ・「すくすくミュージックスクール」のテキストの中の曲

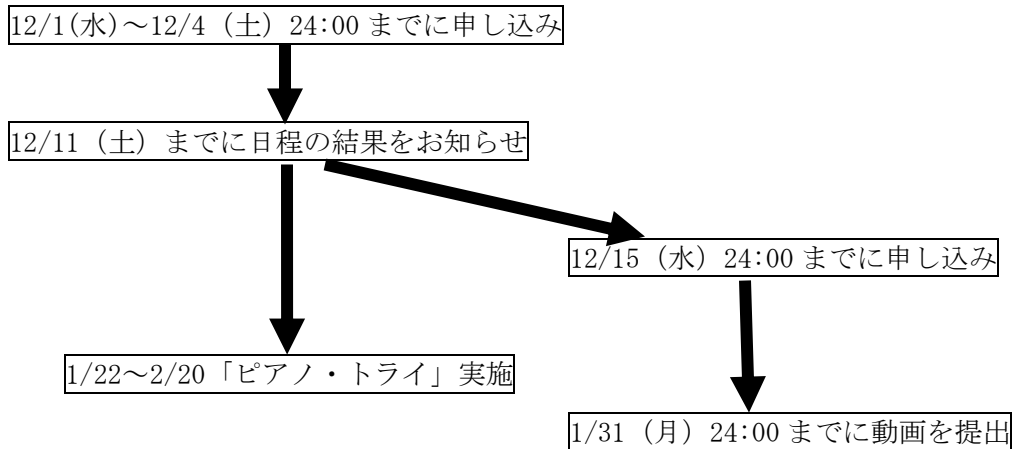
(「おんぷの学校」、「ピアノの学校」、「音楽の学校」の中の曲)

ただし、絵音符の生徒さん、まだ五線の曲に入ったばかりの生徒さんの曲目は自由です。絵音符の生徒さんは、楽譜を見ながら演奏しているところを、動画におさめてください。

以下に重要な日程的メ切をまとめておきます。

対面式「ピアノ・トライ」

動画式「ピアノ・トライ」



「ピアノ・トライ」をお受けになった方の中で、すてきな演奏をされた方には、今までと同様に「ル・コンセール」にご出演いただきます。

「ル・コンセール」は、昨年度も、「対面式」と「動画式」の折衷でおこないました。今年度も、同じ形をとります。

「対面式 ル・コンセール」は、「ひびきホール」でおこないます。部の人数を限り、全員入れ替え制、部と部の間に換気をおこないます。席も離し、密を避ける形で開催します。1回目を2022年2月13日（日）に、2回目を2月27日に予定しています。

「動画式 ル・コンセール」は、動画を提出していただき、それを配信いたします（関係者だけが閲覧できる形です）。人が集まるイベントを避けたい、あるいは日程的に都合がつかない方は、「動画式 ル・コンセール」でご出演いただくことが可能です。

「ピアノ・トライ」で動画式だった方が、「ル・コンセール」を対面式でご出演になることもできます。その逆、「ピアノ・トライ」が対面式だった方が、「ル・コンセール」を動画式でご出演になることもできます。「対面式 ル・コンセール」には人数の上限をもうけません（抽選式ではありません）。

ご都合の良い形をお選びいただきたいと思います。



◆ご卒業生、在校生のご活躍を応援しています

一音会卒業生の反田恭平さんが、現在ワルシャワでおこなわれている世界三大コンクールの1つ「ショパンコンクール」に出場しています。この記事を書いている段階では、二次予選を無事、通過されたところです。演奏は、YouTube で配信されています。どうか皆さま、先輩の活躍を応援してください。

国内もコンクールシーズンとなり、在校生のご活躍も、連日お知らせをいただいています。すべてを把握できていないため、ごく一部のご紹介となってしまいますが、稲葉千隼さんが、「第23回日本演奏家コンクール」中学生の部で、見事第一位になりました。長谷生雅さんは、「第29回ヤングアーティストピアノコンクール」Aグループで金賞を受賞されました。他にも、多くの生徒さんがコンクールを順調に勝ち進んでおられるとききます。

一音会は、ご卒業生の皆さん、在校生の皆さんの挑戦を、心から応援しています。



*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp 電話：03-3954-9999

*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。